

平成 22 年 5 月 20 日現在

研究種目：基盤研究（A）
 研究期間：2006～2009
 課題番号：18252007
 研究課題名（和文） 教育の国際援助・交流・連携の政治経済学的探求 - 「国際教育政策学」の構築を目指して
 研究課題名（英文） Political and Economic Inquiry of International Aid, Exchange and Linkage of Education Constructing “International Policy Studies of Education”

研究代表者

黒田 一雄（KURODA Kazuo）
 早稲田大学・大学院アジア太平洋研究科・教授
 研究者番号：70294600

研究成果の概要（和文）：

本研究の成果は、政治経済社会のグローバル化によって、従来国家（ナショナル）のレベルにおいて主な政策決定がなされてきた教育においても、世界的（グローバル）もしくは地域的（リージョナル）なレベルでの政策の立案や実施の重要性が増しつつあることを明らかにしたことである。これらの成果は、様々な国際会議や出版を通じて、日本や国際社会の国際教育交流・協力・連携の実践・政策過程に対して、実際にインプットされた。

研究成果の概要（英文）：

The main finding of this research is the growing importance of global and regional level governance of education, in which policy decision was traditionally made only in the national level, reflecting rapid political, economic, and social globalization. This research provided some implications for the actual practice and policy processes of international exchange, cooperation and linkage of education in Japan and the international society through various settings of international conferences and publications.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|------------|-----------|------------|
| 2006年度 | 3,800,000 | 1,140,000 | 4,940,000 |
| 2007年度 | 4,700,000 | 1,410,000 | 6,110,000 |
| 2008年度 | 5,000,000 | 1,500,000 | 6,500,000 |
| 2009年度 | 3,900,000 | 1,170,000 | 5,070,000 |
| 年度 | | | |
| 総計 | 17,400,000 | 5,220,000 | 22,620,000 |

研究分野：教育学

科研費の分科・細目：教育社会学

キーワード：国際教育協力、国際教育交流、国際教育連携、国際関係論、教育援助、ユネスコ、ユニセフ、世界銀行

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初の 2006 年、世界には未だ 8 億人以上の非識字者と 1 億人以上の未就学の児童が存在していた。このような状況に対し、1990 年代以降の国際社会は途上国における基礎教育の深刻な現状をグローバルイシューとして認識し、協調・協力して活動していく必要のあることを、様々な国際協議の場で確認してきた。1990 年に世界銀行・ユネスコ・ユニセフ・国連開発計画が共催した「万人のための教育世界会議」以降、1995 年の「社会開発サミット」や 1996 年の経済協力開発機構による「新開発戦略」の策定、2000 年の「世界教育フォーラム」「ミレニアム開発サミット」を経て、2000 年代には、教育セクターは国際機関や二国間援助機関が発展途上国に対して行なう国際協力の主要なセクターとなっていた。1990 年代から 2000 年代にかけて、日本政府も国際社会の要請に応え、世界の援助潮流と協調するため、80 年代までの開発援助政策を大幅に転換し、開発援助における教育セクター重視を鮮明に打ち出していた。2002 年にはカナダ・カナダスキスで開催された主要先進国首脳会議においては、当時の小泉首相が「成長のための基礎教育イニシアティブ」を発表し、我が国は 2007 年までに 2,500 億円以上の教育協力を行なうことを国際的に表明した。

一方、人の国際的移動の爆発的増大、経済の国際的相互依存関係の深化、IT の長足の進歩、そして知識基盤社会の台頭は、従来基本的には一国の枠組みで考えられていた教育のあり方に大きな変容を迫りつつあった。留学というクロスナショナルな教育形態は一般化し、教育のバーチャル化は急速に進展し、ツィニングやダブルディグリーなどの教育機関の国際的な連携も進化し続けており、特に高等教育においてはグローバルな市場が

形成されてきた。1998 年にはユネスコで高等教育世界会議が開催され、グローバル化・情報化が進展する高等教育の将来が展望された。近年では、世界貿易機関や地域自由貿易協定の国際交渉の場でも、教育のサービス貿易が議論の対象となってきた。また、ヨーロッパ共同体の地域統合の動きの中で、「ソクラテス・エラスムス計画」等の地域国際教育計画が実施され、域内での国際的な教育交流と連携が急速に拡大した。2005 年以降の「東アジア共同体」構想を始めとする世界各地の地域統合の動きに連動した国際教育交流、国際教育協力政策が現れていた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、以上のように多様な展開を見せる国際的な教育活動（援助・交流・連携）の全体像を把握したうえで、国際機関や各国政府の国際教育政策・戦略を、多様な指向性の観点から分析し、国民国家や国益を基とする教育観と、グローバルな教育開発の成果や国際社会への公共財の提供を志向する教育観の均衡点を見出すための政策分析のフレームワークを提示することにあった。

国際教育政策・戦略の指向性はこれまでの申請者の研究から以下のように考えられる。

- ・国際的な相互理解を増進しようとする指向性
- ・影響力を維持・増進しようとする文化政策的指向性
- ・人権人道的な貢献への指向性
- ・効率的效果的な開発政策への指向性
- ・教育の国際マーケットの拡大への指向性
- ・伝統的・文化的教育の価値の伝承と発展への指向性
- ・援助供与国や留学生受入国の独自の貢献を示そうとする指向性
- ・国際的な動向と連動しようとする指向性
- ・教育方法学的な適切性への指向性
- ・他の開発セクターとの連携をとろうとする指向性
- ・教育の質に対する指向性
- ・教育に対するアクセス拡大への指向性。

これらのそれぞれの指向性において政策

分析の指標を設定し、各国際機関や各国政府ごとに独立して展開されている国際教育政策を統合的に分析する研究フレームワークを開発し、「国際教育政策学」の基盤を構築することを本研究は目指した。その際、これまでの教育政策の分析では使われてこなかった、国際政治学や国際経済学の理論的な蓄積を分析のツールとして応用し、社会科学の一分野としての「国際教育政策学」の構築を目標とした。

3. 研究の方法

上記の目的のために次のような活動をした。

(1) 研究実施体制構築セミナー(2006年7月、早稲田大学) - このセミナーでは、初年度に研究分担者・研究協力者が一同に会し、

研究代表者からの本研究プロジェクトの概要・「教育の国際関係論に関する試論」に関するプレゼンテーションを行い、本研究プロジェクトの方向性に関して協議を行った。

(2) 日本の教育援助の政治経済学的研究の実施 - 初年度の研究対象として、日本の教育援助を取り上げることとし、各自で研究活動を実施した。

(3) 2008年2月ケニア・エチオピアにおいてアフリカ連合事務局・アフリカ女性教育者フォーラム・ユニセフアフリカ地域事務所等のアフリカ地域の教育政策フレームワークの現地調査を実施した。

(4) 2008年2月タイ・インドネシアにおいてASEAN事務局・東南アジア文部大臣機構・ASEAN大学ネットワーク等、アジア地域の教育政策フレームワークの現地調査

(5) 2009年度、国際協力機構研究所との共同研究として、アジアの国際的大学300と共同学位プログラム1000を対象に行っている国際化に関するサーベイ調査を実施した。

4. 研究成果

本研究の成果は、政治経済社会のグローバル化によって、従来国家(ナショナル)のレベルにおいて主な政策決定がなされてきた教育においても、世界的(グローバル)もしくは地域的(リージョナル)なレベルでの政策の立案や実施の重要性が増しつつあることを明らかにしたことである。そのうえで、本研究は、教育の国際的な政策決定メカニズムを、グローバルとリージョナルの2段階で考察し、その過程を分析・理論化することを着手し、教育分野からグローバルガバナンス研究や地域統合研究への新たな分析フレームワークと理論仮説の提示を試みた。これらの成果は、以下のような様々な国際会議や出版を通じて、日本や国際社会の国際教育交流・協力・連携の実践・政策過程に対して、実際にインプットとなった。

(1) アジア比較教育学会(2007年1月、香港大学)での研究成果発表 - 上記日本の教育援助政策研究の研究成果を基にして、香港で開催されたアジア比較教育学会(国際学会)において、3つのパネルを組織し、11名の研究分担者により、10の研究発表を実施した。

(2) ユネスコ国際教育計画研究所「Fundamentals」の日本語訳出版準備 - ユネスコ国際教育計画研究所の「Fundamentals」シリーズの一部(12冊)について著作権を取り、研究分担者によって日本語で翻訳した。

(3) 2008年1月、早稲田大学において、アジアの高等教育の地域協力・統合を議論する「アジア国際高等教育シンポジウム」を開催。ASEAN大学ネットワーク、東南アジア文部大臣機構高等教育地域センター等からの代表者が出席した。

(4) 2008年2月、世界銀行ファストトラ

ックイニシアチブ事務局長 Desmond Bermingham 氏を早稲田大学に招き、研究分担者とともに、教育財政支援専門家会合を実施した。

(5) 2008 年 4 月外務省・広島大学と共催で Fast Track Initiative 東京会合にあわせて「持続可能な EFA に関する国際シンポジウム」を開催した。

(6) 2008 年 12 月早稲田大学においてアジアにおける人の移動・アジアの高等教育の地域協力統合に関する国際シンポジウムを、北京大学国際高等教育研究センター・東南アジア文部大臣機構代表者を招へいし、開催した。

(7) 2009 年 10 月、早稲田大学において「国際高等教育フォーラム」を開催した。このフォーラムでは、Phillip Altbach ポストンカレッジ教授や Jane Knight トロント大学教授、Supachai Yavaprabhas 東南アジア文部大臣機構高等教育開発研究所所長などの世界を代表する研究者が集う国際会議となり、2 日間にわたって、国際的な観点から高等教育政策を援助・交流・連携の観点から議論し、本研究プロジェクトを総括した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 17 件)

黒田一雄、「国際教育協力の再生 - 平和・人権・開発の総合的アプローチ - 国際開発研究、査読有、18 巻 2 号 2009 年、33 - 46

Kazuo Kuroda , David Passarelli、Modelling TNE Directions in Asia, The OBSERVATORY on Borderless Higher Education、査読有、2009 年、1-50

黒田一雄、「特集緒言：FTI 議長国としての日本」、国際教育協力論集、査読無、第 11 巻第 2 号 2008 年、1 - 3

黒田一雄、日本の教育開発経験 - 発展途上国へのインプリケーション、アジア太平洋討究、査読無、第 11 巻 2008 年、189-214

黒田一雄、アジアの高等教育 - 市場化と国際化の中の自立的発展、ワセダアジア

レビュー、査読無、No.4、2008 年、4-10

勝間靖、[子どもの権利]と新たな国際秩序の模索～子ども時代に暴力や搾取にあった人びとの行為主体性、国際政治 [周縁からの国際政治] 査読有、149 号、2007 年 11 月、156-171

勝間靖、教育と健康～HIV/エイズを中心として、国際開発研究、査読有、16 巻 2 号、2007 年 11 月、35-45

[学会発表](計 33 件)

Kazuo Kuroda “Possibilities and Challenges in Constructing a New Regional Collaborative Educational Framework in Asia” Beijing Forum 2009 年 12 月、Peking University

Kazuo Kuroda “Regionalization and Higher Education” 早稲田大学・名古屋大学・東北大学共催国際高等教育フォーラム 2009 年 10 月 早稲田大学

Kazuo Kuroda “Japanese Policy Developments on Higher Education Cooperation in Asia and Curriculum Development” International Forum “Curriculum Leadership and Development in Higher Education 2009 年 10 月 SEAMEO Vietnam

Kazuo Kuroda “Searching for a new regional governance framework of international higher education in Asia” International Conference on Higher Education Research and Development 2009 年 7 月 Thailand

黒田一雄 「アジアの高等教育におけるリージョナリズムの実証的考察」日本比較教育学会第 45 回全国大会 2009 年 6 月 東京学芸大学

Kazuo Kuroda “The Relationship between the University and Government in Global Human Resource Development” Universitas 21 Symposium 2009 年 5 月 Korea University

Kazuo Kuroda Japanese Viewpoint on Higher Education Cooperation in ASEAN and the Asia-Pacific International Conference: Exploring the Ideas of Creating Higher Education Common Space in Southeast Asia 2008 年 11 月 Bngkok, Thailand

Kazuo Kuroda Regional Integration and Cooperation of Higher Education in East and Southeast Asia: Issues and Prospects 2008 年 10 月 Seoul National University

Kazuo Kuroda Integrating Asia

through International Higher Education - Concepts and Prospects 3rd Worldwide Forum for Comparative Education 2008年10月 Beijing Normal University

Kazuo Kuroda and Yasushi Kastsuma
International Cooperation and Waseda University: Recent Development and Future Prospects UNIVERSITAS 21 Workshop on MDGs 2008年5月 University College Dublin

〔図書〕(計6件)

黒田一雄、国際書院「教育分野における国際協力の世界的潮流」内田孟男編『平和と開発のための教育 - アジアの視点から』、2010、154

杉村美紀 黒田一雄編 文部科学省 国際開発協力サポートセンタープロジェクト「アジアにおける地域連携教育フレームワークと大学間連携事例の検証」2009 308

6. 研究組織

(1) 研究代表者

黒田 一雄 (KURODA KAZUO)
早稲田大学・大学院アジア太平洋研究科・教授
研究者番号：70294600

(2) 研究分担者

勝間 靖 (KATSUMA YASUSHI)
早稲田大学・大学院アジア太平洋研究科・教授
研究者番号：80434356

岡田 亜弥 (OKADA AYA)
名古屋大学大学院国際開発研究科教授
研究者番号：00313982
(H19 H20 : 連携研究者)

北村 友人 (YUTO KITAMURA)
名古屋大学大学院国際開発研究科准教授
研究者番号：30362221
(H19 H20 : 連携研究者)

澤田 康幸 (SAWADA YASUYUKI)
東京大学大学院経済学研究科准教授
研究者番号：40322078
(H19 H20 : 連携研究者)

山田 肖子 (YAMADA SHOKO)
名古屋大学大学院国際開発研究科准教授
研究者番号：90377143
(H19 H20 : 連携研究者)

米澤 彰純 (YONEZAWA AKIYOSHI)
東北大学高等教育開発推進センター教授
研究者番号：70251428
(H19 H20 : 連携研究者)

浜野 隆 (HAMANO TAKASHI)
お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科准教授
研究者番号：00262288
(H19 H20 : 連携研究者)

小川 啓一 (OGAWA KEIICHI)
神戸大学大学院国際協力研究科教授
研究者番号：90379496
(H19 H20 : 連携研究者)

澤村 信英 (SAWAMURA NOBUHIDE)
大阪大学大学院人間科学研究科 教授
研究者番号：30294599
(H19 H20 : 連携研究者)

杉村 美紀 (SUGIMURA MIKI)
上智大学総合人間科学部准教授
研究者番号：60365674
(H19 H20 : 連携研究者)

吉田 和浩 (YOSHIDA KAZUHIRO)
広島大学教育開発国際協力研究センター教授
研究者番号：70432672
(H19 H20 : 連携研究者)

(3) 連携研究者

鈴木 隆子 (SUZUKI TAKAKO)
神戸大学大学院国際協力研究科助教
研究者番号：00437071